静岡県史編さん委員会（第13回）議事概要

日　　時	令和６年２月１９日(月)　午後２時から午後３時まで
場　　所	静岡県庁別館９階　第１特別会議室
出席委員	川勝平太会長（静岡県知事） 中沢公彦委員（静岡県議会議長） 中野弘道委員（静岡県市長会会長） 後藤康雄委員（静岡商工会議所相談役） 戸野谷宏委員（一般社団法人静岡県経営者協会副会長） 山本義彦委員（静岡大学名誉教授） 鬼頭　宏委員（静岡県立大学特別顧問） 堀川知廣委員（静岡産業大学学長） 岩崎康江委員（一般社団法人静岡県地域女性団体連絡協議会会長） 鍋倉伸子委員（㈱戸田書店代表取締役） 出野　勉委員（静岡県副知事） 池上重弘委員（静岡県教育長） 京極仁志委員（静岡県経営管理部長）
欠席委員	込山正秀委員（静岡県町村会会長）
内　　容	開会 議事 〇静岡県史資料編 (1)「資料編　産業・経済」の発刊について（報告） (2)「資料編　政治・行政」の構成案について（議題） 〇静岡県史別編（人口史） 「ふじのくにの人口史」の発刊について（報告） 閉会

議事内容

〇静岡県史資料編

(1)「資料編　産業・経済」の発刊について（報告）

(2)「資料編　政治・行政」の構成案について（議題）

(1)、(2)について、編さん担当の山本委員が一括して説明

山本委員　・２月１日に資料編産業・経済を発刊した。

・知事の序文に、「歴史を知ることは、過去の諸々の出来事の本筋を見抜くことを通して、未来への指針を手に入れることであります」とあるが、資料

編を担当した私たちも、今後の静岡県の進むべき方向を考える参考となるよう資料を厳選した。

・対象は、1960 年代中頃から川勝知事就任の 2009 年頃まで。この期間を 10 年ごとに区切り４編の構成とした。

・各編は、第１章商工業、第２章農林業、第３章水産業とした。

・編集にあたっては、国の産業政策、それを受けた静岡県の施策を明らかにした上で、地域の産業について考察する必要があるため、各編の第１章では、第１節に産業政策を置き、以下、在来産業（地域産業)、化学・機械工業、金融、商業、交通政策、エネルギー産業、観光を節立てした。

・資料としては、県や市町の行政刊行物、調査報告書、歴史的公文書、県議会議事録、新聞記事、各種団体の機関紙、各企業の社史に加え、インターネットで公表されている資料等を幅広く選定した。

・今回収載した 609 点の資料から、在来産業を一つの事例として説明する。

・資料編 33 ページは、静岡市の在来産業の特徴を示す資料である。静岡市は静岡浅間神社造営以来の伝統を継承する木工産業が極めて盛んで、漆器、鏡台・家具、仏壇・仏具、雛道具、下駄等多様な業種がみられる。

・資料編 35 ページからは、輸出木製雑貨品と呼ばれた木製宝石箱や木製台所用具、雛具・雛人形、静岡サンダルの様子がわかる資料である。

・資料編 1000 ページは、1980 年代以降の円高の進行で輸出が厳しくなる中、消費者ニーズの個性化・高級化をとらえ、情報技術の活用を中核とした技術革新で内需への転換が進められたことを示す。

・資料編 1017 ページには、戦時中の木製模型飛行機製造から発したプラスチックモデル産業の動向も示した。

・巻末には、国や県の産業政策とその下での地域の産業の動向について、収載した資料の個別解題も含めて解説を付した。

・口絵は、昭和 25 年に刊行が始まった『県政概要』の口絵から、本県の産業・経済の様子を伝えるモノクロ写真をまとめた。

・裏表紙には、人口、農林水産、鉱工業、電気・ガス・水道、運輸・通信、商業、貿易、労働・賃金、観光等 95 の統計資料を収めた CD-ROM を付録とした。

・令和７年度に刊行を予定している「資料編　政治・行政」について説明する。

・1960 年以降の政治・行政を２期に分けて第１編、第２編とし、第３編では地域防災と防災対策についてまとめる。

・第１編と２編の区分は、地方の政治構造に大きな影響を与えた小選挙区制

の導入を一つの転機ととらえた。

（1）、（2）について、質疑応答、意見交換

会　　長　・各編とも、第１章商工業、第２章農林業、第３章水産業と同じ構成で、かつ執筆者も一貫しているのでわかりやすい構成・内容である。

鬼頭委員　・静岡は、登呂遺跡や駿府城、幕藩体制、渋沢栄一の商工会議所等、極早い時期にその時代を作るエポックメイキングができている。そういうことを読み取っていけば、この低迷してる時代に何が出せるかという勇気を与えてくれる、ヒントを与えてくれる感じがする。

後藤委員　・地場産業である缶詰産業は、昭和の始めに起こし、輸出からスタートして、戦争時代の軍需産業の時代を経験して、また輸出で復活、その後の円高によって非常に大きな打撃を受け、それを乗り越えた会社が今残ってる。そういう点で、勉強になる資料編である。

・大きな活字や多くの写真の収載、厚くなるのであれば分冊化も検討いただけるとありがたい。

堀川委員　・農業行政の仕組みがこれで整理できるのではないかと思う。

・総合計画も何冊か作成したが、それぞれを見てみれば県の施策はおおよそ理解できるが、全体を通してみるとなかなかできないので大変参考になる。

・何を現在行わなくてはいけないのかについてもかなり参考になるものが多い。

・大学としても、学生の授業の参考にさせてもらいたい。

戸野谷委員　・資料編をいかに活用するか、いかにいろんな方に興味を持ってもらうかが大事。弊社も数年前に 100 年史を発刊したが、その際に本冊と、その中からいくつかのトピックスを抜き出して社員に読みやすい別冊も作成した。どれだけ活用されるかが重要。

・学生の活用については、資料の収集や編さんにも関わっていただくと、学生が資料編に学び、ここでないと学べないことに繋がり、ここに就職して住み続けよう、ということに繋がっていくのではないか。

池上委員　・ここ数年、教育の現場では「探究」という言葉が一つのキーワードになっている。探究は、単に調べて終わりではなく、自分なりのテーマを立て、それを深掘りしていく。さらに深掘りした内容をもとに、自分なりの問題意識でレポートやプロジェクトを立ち上げて、周りを巻き込んで、あるいは周り対して訴えかけていくことで、より良い社会作りにコミットしていく。こういう活動である。

・とはいえ、中学生・高校生が資料編を手に取ることは考えにくいので、県

史に関心を持つ取っ掛りが必要となる。

・東静岡駅直結で造る新県立中央図書館で静岡県史のポイントや静岡県史を使うとどんな探究の深まりが見られるかという取っ掛りを掲示板等で示していくことも一つの具体案かと思う。

・健康な高齢の方々が増えている中で、関わった業界の歴史を見てみたくなる資料を作成し、それを図書館等で示したり、図書館や県のホームページ上で見えるようにする工夫が必要ではないか。

・資料編は、通読するというよりも、関係あるところをデータとして欲しいという要望が多い。そこをパソコン上で大きくしてみることが可能というアピールも、利用者、活用する方を増やす意味では大事なのかなと考える。

会　　長　・「資料編　政治・行政」について、第1編が高度成長途中の90年代まで、第二編が不安定成長と地域、そして第3編が防災と防災対策という構成内容について、御意見はどうか。

堀川委員　・1960年代の若者たちのエネルギーというのは、すごいものがあったのではないかという気がする。いろんな運動もあった。そうした効果についても触れられるのか。

山本委員　・構成案はまだ仮だが、地域社会がどのように動き、それが県の動きとどう連動していくのかも大いに取り込んだ展開としたいと考えている。

鍋倉委員　・分権改革という項目があるが、民と官との関わりと、その問題点についてはぜひ取り上げていただきたい。

・女性議員がどのように増えてきているか、また増えていないかを項目のどこかに入れていただきたい。

鬼頭委員　・もう一つの問題として、外国人の問題はどこかで取り上げるか。将来的な課題だが投票権とか、外国人の行政の参加とか。

山本委員　・女性議員も含め女性の問題は、資料編政治・行政、社会・教育・文化で扱いたいと考えているので、また御教示願いたい。

・外国人労働力問題は資料編社会・教育・文化で扱いたい。

後藤委員　・この時代は、経済面だけでなく、政治の面でもグローバル化が進展した。そういう観点からも捉えていったらどうか。

会　　長　・資料編政治・行政については、山本委員説明の内容に、今いただいた御意見を参照にして編さんを進めていただくということでよろしいか。

各 委 員　（承認）

会　　長　・承認いただいたので、資料編政治・行政については、先ほどの説明の通り編さんを進めていただくようお願いする。

○静岡県史別編（人口史）

「ふじのくにの人口史」の発刊について（報告）

鬼頭委員から説明

鬼頭委員　・静岡県史の別編人口史を 2021 年、県立大学退任に合わせて知事に渡したが、その時に静岡県史は中・高校生には手に取りにくいので、コンパクトな新書版を出したいと話をした。

・当初は、静岡大学の先生と一緒に、若い人たちを集めて、意見交換しながら作ろういう企画でスタートしたが、コロナ禍の影響もあり、結局１人で書いた。県史の人口史編の単なる縮小版ではないことを考えていたが、結局それをぐっと圧縮した形になった。

・今の少子化を解決するには、補助金とか働き方改革だけでは駄目で、若い人がかなり早い時期から将来に対して見通しを持って計画を立てることが必要ではないか。

・金融教育については小学校から高等学校まで教科の一環で教えることになっている。その中にライフプランニングの話も出てくるから、それと結びつけて日本の結婚の現状とか、出生率の現状について学んでもらえるようなプログラムをやっていただきたい。

・さきほどの総合学習（探究）でも、自分の郷土の人口について、戦後からでもいいし、明治からでもいいけれども、できたら古い時代に遡って勉強してもらうきっかけにもなればいいかなと考えている。

池上委員　・この１月に静岡県教育委員会で「ふじのくに探究オンラインプラットフォーム」を立ち上げた。これは探究について先生方が横で繋がったり、大学の先生と繋がったり、場合によっては企業、ＮＰＯの方とも繋がったりする、そういうプラットフォームである。まだコンテンツは少ないが、その中で地域探究する時の参考図書のページを作るといいのではないか。

・高校生は、地域の課題として人口減少、まち作り、移住者呼び込みについて関心を持っているので、オンラインプラットフォームにこうした情報や図書館での所蔵情報が出てくると若い世代の利用者が増えていくのではないかと思う。

会　　長　・この人口史の「口」っていうところに静岡の地図を入れられたのはよい。

・これだけの参考文献は、先生でしかあげられない。

山本委員　・前の県史が終了して静岡県歴史文化情報センターを立ち上げた。収集資料目録を整備をしてインターネットで公開している。

・今回の資料編も本当はネットで見れるようにするのが一番と考える。『福田町史』はネット上で読める。静岡県史も、インターネットで読めるように

なると良い。

京極委員　・インターネットでの公開の話について、冊子体は大学、研究機関、公立図書館に配布し、一方でインターネットにも掲載するような形で考えたい。

・ペーパーレスの時代、紙の文書を減らそうと努力をしているので、静岡県史についても対応していきたい。

鬼頭委員　・配布した追加資料について説明する。

・一つは、コロナが始まった頃からピークの頃まで各都道府県の感染者の発生数と人口密度の関係を調べた。最初の頃は相関係数が小さく、非常に局所的だった。流行り始めて１年ぐらいで人口密度の高い東京、大阪、神奈川というところで発生し、都市墓場説であるとか都市蟻地獄説と言われる都市であると大勢人が死んでしまうという通説の兆候が確認できた。

・昨年の５類移行前のデータを確認したところ、一時期よりずっと相関係数が低下している。つまり、人口が密集していない地域でも結構発生患者が増えているということがわかった。

・これは、あるところを過ぎると、人口密度も関係なしに流行っていく病気だと感じた。これは大正のスペイン風邪のときも同じ現象であった。スペイン風邪のデータでも、人口密度と患者あるいは死亡率の関係はほとんどない。

・データは、ある点で見て何か決定をしてはいけないのだが、長期的に見なくてはならない。やはり歴史を見ることが必要。

・もう一つは、昨年 12 月に市町村別の人口推計が出たが、今度の集計でも、2050 年までに川根本町では４割減ることがわかってきた。前の 2018 年の推計と 2023 年の推計を比べてみると、20％も増加している地域と、20％近くも減るという地域がある。地域格差がこれからますます広がる可能性がある。

会　　長　・当初から人口密度と感染の関係についてエッセイも書かれておられたので、多くの人たちにとって益すると思う。スペイン風邪と比較しながら、何らかの形で人にわかるようにされたらどうか。

会　　長　（議事終了）。